

地質情報

地質調査所
地質情報センター

先月に続いて今月も、最近地質調査所で刊行された地質図と月報の内容を紹介します。

御前崎地域の地質（5万分の1）

杉山雄一・寒川旭・下川浩一・水野清秀

御前崎からいわゆる掛川南部にかけて地域の地質図で、中新世から更新世の相良層群・掛川層群・小笠原層群が分布する。これらを覆って牧ノ原段丘・笠名段丘・御前崎段丘などの段丘が広く発達する。御前崎地域には北東-南西方向の小規模な褶曲が何条も発達する。これらの段丘は変形していて、それについては説明書に記述されている。(1988年9月9日発行)

佐世保地域の地質（5万分の1）

松井和典・古川俊太郎・沢村孝之助

九州北西部に位置する、かつての佐世保炭田の中心部の地質図である。古第三系の杵島層群・中新統の相浦層群・佐世保層群・野島層群が局所的に20°ないしそれ以上に傾くが、一般に20°以下のゆるいドーム構造をもって分布している。多くの正断層によって切られていて、構造は複雑である。炭層は、相浦層群・佐世保層群・野島層群に挟まれるが、主要挟炭層は佐世保層群である。北西部に紐差安山岩類、中部から北部にかけて北松浦玄武岩類が分布するが、いずれも中新世後期の活動とされている。典型的な正断層の発達地域の地質図である。(1989年2月10日発行)

山上ヶ岳地域の地質（5万分の1）

志井田功・諏訪兼位・梅田甲子郎・星野光雄

紀伊半島のほぼ中央、西南日本外帯の四万十帯、一部秩父帯にかかる地域の地質図である。四万十帯の地層は、白亜系の日高川層群で、20°~40°の傾きのドーム・ペーズン構造をもっている。中央部に、中新世-鮮新世前期の大峰花崗岩類が南北に貫入している。北東部にジ

ュラ紀およびそれ以前の地層が、やはり20°~40°の傾きをもつドーム・ペーズン構造をもって分布していて、秩父帯の地層に対比されている。地層が細かく区分され、その分布が明らかにされているので、地質構造をよく読み取ることができる。(1989年2月28日発行)

大社地域の地質（5万分の1）

鹿野和彦・竹内圭史・大嶋和雄・豊 遙秋

島根半島南西部から出雲平野にかけて地域の地質図である。北部の島根半島は、中新統のいわゆるグリンタフとそこに重なる泥岩・砂岩・礫岩からなり、大凡的には北方に傾く。南部は出雲平野で、更新統が海岸ぞいに露出するほかは、沖積層でしめられている。(1989年3月17日発行)

重力図（20万分の1）

No.1 青森……広島俊男・駒沢正夫・中塚 正（1989）

地質調査所のデータを含む既存のデータを編集した新シリーズで1 mgal 間隔の等重力線によるブーゲー異常図。補正のため仮定密度は2.3g/cm³。

地質調査所月報 第40巻第12号 1989

鹿野和彦・柳沢幸夫：

阿仁合型植物群及び台島型植物群の年代……………	647
鈴木尉元・遠藤秀典・鈴木祐一郎： 宮崎平野の最近の地殻変動……………	655
柴田 賢・中島 隆・寒川旭・内海 茂・青山秀喜： 四国における中央構造線の断層ガウジの K-Ar 年代……………	661
岸和男・永井茂・石井武政・安原正也： 秩父市周辺小河川における比流量および水質と 地質（岩種）との関係……………	673
地質調査所研究資料, No.133, 134……………（抄録ページ） 第40巻総目録	

地質調査所の出版物について

問い合わせ：地質情報センター情報管理普及室

Tel. 0298-54-3601

購入：地質標本館

Tel. 0298-54-3750

東京地学協会

Tel. 03-261-0809

日本産業技術振興協会

Tel. 0298-52-3388

地質文献センター

Tel. 0423-84-6875